

SSKW

川崎市障害者社会参加 推進センター通信

編集人 川崎市障害者社会参加推進センター

所 長 関山 進

編集責任者 広報・啓発委員会

委員長 伊藤 實

〒210-0834 川崎区大島 1 - 8 - 6

川崎市南部身体障害者福祉会館内

電 話 044-246-6941

F A X 044-246-6943

E mail zksk@nifty.com

<http://kawashinkyo.org>

令和 7 年度川崎市身体障害者福祉大会 開催



（福田市長の挨拶の様子）

令和 7 年 7 月 6 日（日）会館とどろきにて川崎市身体障害者福祉大会が開催されました。大会スローガン「自立と共生の地域社会の実現に向けて」を掲げ、式典と講演の二部構成で開催し、市内の身体障害者及び関係者約 100 名の方にご参加いただきました。

今年度より、福祉大会の当番は地区団体から障害種別団体へと変更され、初回となる今回の当番は視覚団体（川崎市視覚障害者福祉協会）が担い、当日の司会や第二部の企画等

を行いました。

第一部の式典は、船橋光俊実行委員長による開会のことばで幕を開け、関山進大会会長（川崎市身体障害者協会理事長）による主催者あいさつと続きました。次に、来賓あいさつでは、お忙しいところご臨席を賜りました福田紀彦川崎市長、原典之川崎市議会議員、今富子社会福祉法人川崎市社会福祉協議会会長より、ご祝辞をいただきました。来賓の方々の紹介の後、渡部修治川崎市身体障害者協会

事務局長より、前年度の福祉大会にて発表された川崎市への要望事項の取り扱いに関する経過報告、障害種別団体等の代表者による令和 8 年度に向けての要望事項の発表が行われました。各団体等より発表された要望事項は以下のとおりです。

令和 8 年度に向けての要望事項	
視 覚	川崎市地域において「uni voice blind (ユニボイスブラインド)」のサイトの耳で聞くハザードマップの利用ができるように、川崎市が利用契約をされるよう要望します。
聴 覚	重度障害者医療証及びふれあいフリーパスのカード化とマイナンバーへの紐付けを要望します。
脳 性	重度訪問介護ヘルパー不足を解消していただくよう要望します。
脊 損	ミライロ ID の周知について要望します。
オストミー	川崎市内の避難所にオストメイト専用の災害用トイレの備蓄を要望します。
難 聴	難聴者が個人で趣味等の活動に参加する際（自己啓発の場）の要約筆記者派遣の機会が増えるよう要望します。
腎 臓	医療費助成制度継続並びに新たな検討について要望します。
川身協	合理的配慮の提供の義務化に伴う民間事業者への周知と支援を要望します。



(要望事項の発表の様子)



(講演の様子)

続いて第二部では、川崎市市民文化局市民生活部戸籍住民サービス課マイナンバーカードセンター職員の方、川崎市総務企画局デジタル化施策推進室職員の方より、「マイナンバーカードについて」をテーマにご講演いただきました。マイナンバーカードを申請してから受け取るまでの流れや利用方法などの基本的なことや、マイナ保険証についてのお話を伺うことができました。講演を通じて、マイナンバーカードの理解が深まり、身近に感じることができたのではないのでしょうか。来場された方からのアンケートでは、「知らないことも多かったが有意義だった。」との感想をいただきました。

講演の後、^{にいじまさひろ}尼寺正博副実行委員長による閉会のことばで福祉大会は終了いたしました。

来場された方々にアンケートのご協力をいただきましたので、その一部をご紹介します。

- ・福田市長にも臨席いただき良い大会だった。
- ・司会が上手だった。
- ・マイナンバーの話が大変よかった。
- ・来場者が少ないように感じた。

今後も各構成団体等の要望事項の実現に向け、関係機関との対話を進めてまいります。

最後に、本大会の開催にあたり、当番を担っていただいた川崎市視覚障害者福祉協会をはじめ、ご協力いただいた関係者の皆様に改めて厚く御礼を申し上げます。

(事務局)

身体障害者福祉大会をふりかえって

本年の大会は、視覚障害者福祉協会が当番団体となり、大会準備と当日の運営については長年の経験を生かして川身協事務局が中心となり各構成団体から運営のためのスタッフが参加しました。各団体の協力で、円滑に大会運営ができました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

第一部では令和 8 年度に向けての要望事項が発表され、各構成団体の課題を共有しました。また第二部ではマイナンバーカードについて、川崎市の担当者 2 名にご講演いただきました。マイナンバーに関する制度の内容について市民として必要な参考情報が提供されました。

第二部のテーマの選定は難しいところです。以前はアトラクションの演目もありましたが、障害の状態がさまざまな構成団体の会員が皆で楽しめる演目を今回は設定できず、講演会としました。

大会の参加者は 100 人ほどでした。市民への啓発の場として、また、当事者が意識を共有する場として、より多くの人に参加してほしいのですが、アトラクションが効果的とも思えず参加者増をめざす取り組みには苦慮するところです。

身体障害者福祉大会を終えて ～要望の実現のために望むこと～

今年も昨年に引き続き市長みずから挨拶され、また市議会議員や健康福祉委員会の議員の方々にも列席いただき、この大会を総論的には重視している市の姿勢は示されたのだが、各論的には本年 3 月に提示された昨年の要望事項に対する市の回答はそのほとんどが消極的な内容であった。果たして今回は、私たちの切実な要望事項に対して市はどのように受け止めて回答がなされるのであろうか。

例えば、今回の要望事項で川崎市ろう者協会は重度障害者医療証のマイナンバーへの紐付けを要望した。これはすでに本年 4 月より横浜市と茅ヶ崎市では実施されているのだが、どうして川崎市では対応できていないのだろうか。他にも同様の事例があって、福祉サービスの向上のための新規施策に取り組もうとする市行政組織の各レベルでの問題意識、感度が、現在の川崎市は他都市よりも弱くなっているのではとの感じがしてしまう。

以前には福祉サービスについて川崎市担当者の積極的な態度を実感したことがあった。視覚障害者情報文化センター開設前の平成 25 年 10 月、日常生活用具の視覚障害者用ポータブルレコーダーの給付対象となる障害区分を 1・2 級から当該用具が必要と認められた視覚障害者（身体障害者手帳のある者）に拡大した。全国的にも例がない市独自の施策である。当事者団体の要望を受けとめ、福祉サービス充実への問題意識を持って取り組んだ当時の川崎市担当課スタッフの英断であったと思う。今回横浜市などでこの紐づけが実現されたのは市スタッフの誰かの問題意識があり前向きに対応しようとする組織文化が根付いているからではないのか。

現在の川崎市の福祉行政担当者には、他都市で新規施策として実現したこのような施策実施決定の過程と姿勢をもっと見習って欲しい。そして、本年の福祉大会の要望事項に対して、市担当スタッフが障害当事者の切実なニーズを理解する感度を深め、問題意識をもって、「他都市の動向を見て検討」というような受け身ではなく、積極的な姿勢での検討と前向きの回答を期待したい。なお、このような行政スタッフの積極的な姿勢、感度は、特別市（特別自治市）構想を推進しようとする市においてそのスタッフに望まれる資質でもあろう。

（福祉大会実行委員長 ふなばしみつとし 船橋光俊）

障がいがあっても、できることは必ず見つかる。「好き」を大事に、前向きに取り組もう。**～ オストメイトの音楽活動紹介 ～**

音楽家のご夫婦、大西雄二さんおおにしゆうじとますみさん。幼少期からピアノに親しんだますみさんは、ドイツでチェンバロを学びました。雄二さんは高校時代にコントラバスと出会い、その後上智大学、東京藝術大学、ベルリン芸術大学へ進学。ベルリンで出会った二人は、その後約42年間、家族として、音楽を共創する最も身近なパートナーとして、共に歩んできました。

ますみさんは2015年に脳梗塞を発症。リハビリを経て、「左手のピアニスト」となります。雄二さんは、2017年にがんを患い、オストメイト（人工膀胱保有者）となりました。ますみさんの左手のピアノと雄二さんのコントラバスという唯一無二の組み合わせは、温かく柔らかな音色を生み、多くの人を魅了してきました。

10月24日、日本オストミー協会川崎市支部主催の「ふれあいコンサート」で演奏するお二人に、お話を伺いました。

○音楽との出会い

「6歳の頃、ピアノを習う友達に付いて行ったら、自分も習ってみたいくなった」と言うますみさん。「高校、大学の時に、チェンバロと出会い、なんてステキな音！」と感動しました。桐朋学園卒業後、ドイツから来日していたチェンバロ奏者に出会い、「ドイツにおいてよ」と言われ、その後、デトモルト音楽大学に三年間留学します。

音楽好きのご両親のもと、次男として生まれた雄二さんは、小学生でピアノを習い始めます。「兄はピアノが上手だったけれど、僕は嫌いだった。ところが中学校卒業の時、担任の先生が『田園』と『未完成』のレコードをくれて。何度聴いてもよかった」。これが音楽を志す最初のきっかけになります。上智大学在学時に経験したベルリンフィルの指揮者カ



ラヤンとの出会いは衝撃的でした。「来日中のカラヤンが、大学のオーケストラで自ら指揮してくれたんです。同じオーケストラとは思えないほど音色が美しかった。まさに夢のような時間でした」と当時を振り返ります。

時を同じくしてドイツに留学していた二人はベルリンで出会い、結婚。2003年、非営利コンサート「伝わるもの」（横浜アートプロジェクト主催）での本格的な共演をきっかけに、フルートやファゴット、バイオリンなどの器楽奏者の仲間と、毎年コンサートを開催するようになりました。

○病気との付き合い方

ますみさんは2015年に脳梗塞を発症、右半身が不自由になりました。7ヶ月の入院のちリハビリを経て、翌年「左手のピアニスト」となります。雄二さんは2017年にがんを患い、オストメイト（人工膀胱保有者）となりました。

雄二さんは、がん発症にはストレスが原因と痛感、ストレスをなくすために生活を変えることを決断しました。「常にマイナスをプラスに捉えています。嫌いな人がいたとしても、良いところを探して好きになろうとする。そんなポジティブさを大事にしていますね」。

ますみさんは左手のピアニストになってから、かえって音楽に対して自由になったと言います。二人のレパートリーもぐんと増えたそうです。

○音色の追求

お二人がこだわっているのは「音色」。

『色』には空気感や触感まで含まれています。互いに響き合うように、行間を読み、『間』を感じることが大事」と雄二さん。また「ますみさんの音楽には『間』を感じる。音色も響きも素晴らしい。身近にいるパートナーが理想的な演奏者という、恵まれた環境に幸せを感じます」ともおっしゃられます。弾くほどに演奏が変わっていく。それが楽しくて仕方ないそうです。

○みなさんへのメッセージ

ますみさんからは「障がいがあっても、で（インタビューア 広報・啓発委員 坂本純）



～ アンサンブル・アディふれあいコンサート 2025 ～

人工膀胱、人工肛門保有者を中心とした団体、日本オストミー協会川崎市支部主催のチャリティーコンサートです。誰もが安心して暮らせる社会を目指して活動し、その一環として、このたび「音楽に触れて、健康になろう」をテーマにコンサートを開催しました。健康は誰にとっても大切、どなたでも無料で楽しんで頂けます。

オストメイトのコントラバス奏者・大西雄二と左手のピアニスト・大西ますみが、ロンドンデリーの歌、見上げてごらん夜の星をなど親しみやすいメロディの数々を奏でます。

【会場・日時等】

日時：2025 年 10 月 24 日（金）

昼の部 15 時開演（14 時 30 分開場）

夜の部 19 時開演（18 時 30 分開場）

会場：川崎市総合福祉センター

エポックなかはらホール

（中原区上小田中 6-22-5）

交通機関：JR 武蔵中原駅 徒歩 1 分

申込等：予約不要 入場無料 全席自由

その他：車椅子席あり、盲導犬同伴可能

主催：川崎市オストミー協会事務局



（アンサンブル・アディ HP）



（フライヤーの 2 次元コード）

【出演】アンサンブル・アディ：コントラバス／大西雄二、左手のピアニスト／大西ますみ

【プログラム】アイルランド民謡／ロンドンデリーの歌 コントラバスの話

サン＝サーンス／組曲「動物の謝肉祭」より”象” ”白鳥”

ベートーヴェン／エリーゼのために 坂本九／見上げてごらん夜の星を など

川崎市内の福祉施設紹介「ライブリー」

「ライブリー」は短期入所事業所として、平成 8 年 4 月に開設いたしました。主に知的障害者を対象として、障害者及びそのご家族の地域生活を支援することを目的に、障害者をケアするご家族の病気や緊急の用事、介護疲れなどの際に、家族の方が一時的に休息を取ったり必要な対応をとるために、障害者を日中や夜間にお預かりする短期入所（ショートステイ）を行っています。川崎駅東口からバスで 10 分程度の「大島一丁目」バス停から徒歩約 4 分の住宅密集地域に立地しており、隣には「渡田こども文化センター」、100m ほど先に「田島小学校」があります。



（施設の外観）

開設当初は鉄筋コンクリート 3 階建ての建物全階を短期入所事業所「ライブリー渡田」として使用していましたが、現在 2 階では「わたりだ」という通所の生活介護事業所が運営されています。短期入所事業所は「ライブリー」という名称となり、居室やリビングのある 3 階と、面接等を行う小事務所と利用者用大浴室のある 1 階を使っています。定員は宿泊利用で男女各 5 名、日中短期（日帰り）利用 5 名、緊急短期入所 2 名となっています。ライブリーには看護師の配置がないため、利用できる方の条件として、医療的ケア等の必要のない高校生以上の方となっています。

1 日の大まかな流れは、朝食後の午前中は利用者プログラムとして「工芸」や「レクリエーション」を提供しています。紫外線ライトの光で固まる液体プラスチックを使ったキ

ーホルダー作り、アイロンビーズでキャラクター作品作りなど、工芸では様々な小物の作成を工夫して提供しています。また、レクリエーションとして定番であり人気の高いものに「カラオケ」があります。ほぼ毎日、利用者さんの誰かが大きな声で歌を歌って楽しんでいます。昼食後はみんなでドライブに出掛け、川崎マリエンや三ツ池公園・山下公園等の横浜方面、時には東京タワーへ行ったりしながら、途中のコンビニ等でおやつを買って帰ってきます。その後、1 階の大浴室での入浴、18 時過ぎから夕食をとり、自由時間を過ごしたあと就寝時間、となっています。

利用状況に関しては、土・日・祝日は利用希望がとても多く、宿泊利用については毎月ほぼ満床となっていますが、平日については比較的利用予約が取りやすく、特に 1～2 泊や日中短期利用であれば更に予約が取りやすいかと思います。施設の立地が川崎駅から臨海方面ということで多摩区・麻生区など川崎の北部方面からはアクセスしにくい面はありますが、宿泊の利用が必要な時には空き状況等をお電話でご確認いただければ、ご相談に乗りますのでよろしくお願いいたします。



（居室）

短期入所事業所ライブリー

〒210-0837 川崎市川崎区渡田 1-15-5

電話 044-344-6085 FAX044-344-6087

（短期入所事業所ライブリー すぎうらたつひこ 杉浦辰彦）

第 70 回日本身体障害者福祉大会かながわ大会

令和 7 年 6 月 11 日(水)・12 日(木)にパシフィコ横浜会議センター・ノースにて、第 70 回日本身体障害者福祉大会かながわ大会が開催されました。新型コロナウイルスや能登半島地震の影響により、中止やオンラインでの開催が続いていましたが、6 年振りに会場開催となり、2 日間で延べ約 900 名が参加されました。今回は日本身体障害者団体連合会(日身連)と当番の神奈川県身体障害者連合会、横浜市身体障害者団体連合会、川崎市身体障害者協会が主催となり運営を行いました。

11 日(水)は、日身連評議員会終了後に、防災をテーマにした意見交換会が行われました。
田中弘幸^{たなかひろゆき}石川県身体障害者団体連合会会長、
飯塚善明^{いづみよしあき}静岡市身体障害者団体連合会事務局
長、君島淳二^{きみじまじゅんじ}日身連理事、種村朋文^{たねむらともふみ}埼玉県身体障害者福祉協会会長にご登壇いただき、それぞれのお立場からお話いただきました。

翌日 12 日(木)はいよいよメインイベントの福祉大会です。オープニングイベントの太鼓集団「鼓粋」による演奏ののち、第 1 部の式典に移ります。
荻津和良^{おぎつかずよし}日身連副会長による開会宣言により幕が開き、黒岩祐治^{くろいわゆうじ}神奈川県知事が登壇し歓迎のことばを述べられました。続いて山中竹春^{やまなかたけはる}横浜市長(代理:片山久也^{かたやまひさや}横浜市健康福祉局障害保健部長)からも歓迎のことばをいただき、さらに福田紀彦^{ふくだのりひこ}川崎市長からはビデオメッセージが寄せられ会場で流されました(谷浩昭^{たにひろあき}川崎市健康福祉局障害保健福祉部長が登壇しビデオを紹介)。



(福祉大会会場の様子)



(太鼓集団「鼓粋」による演奏)

続く表彰では、長年障害者福祉の向上に尽力された 50 名の方が表彰され、阿部一彦^{あべかずひこ}日身連会長より、受賞者を代表して神奈川県相原貞雄^{あいはらさだお}様へ表彰状の授与が行われました。

その後、福岡資麿^{ふくおかたかまろ}厚生労働大臣(代理:前田忠秋^{まへただあき}厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長)、盛山正仁^{もりやまさひと}自由民主党ユニバーサル社会推進議員連盟幹事長兼会長代行よりご祝辞をいただいた後、須山優江^{すやまさえ}横浜市身体障害者団体連合会副理事長が大会宣言の採択を、関山進川^{せきやますむ}川崎市身体障害者協会理事長が大会決議の採択を行いました。



(第 2 部 講演会の様子)

第 2 部の講演会は、公益社団法人 2027 年全国園芸博覧会協会サステナビリティ推進部長の見宮美早^{けんみやみさ}様より、再来年に横浜市で開催される「2027 国際園芸博覧会」で取り組んでいる「誰もが楽しめる共につくる GREEN×EXPO2027 に向けて」をテーマに、博覧会におけるアクセシビリティへの考え方や構想についてお話をいただきました。

最後に次回開催地の狩野勝幸^{かりのかつゆき}仙台市障害者福祉協会副会長よりごあいさつ、浅香博文^{あさかひろふみ}

日身連副会長より閉会のことば、がんばろう
三唱とともに大会は幕を閉じました。

（事務局）

大会スローガン

- ・日身連および加盟団体の組織強化を図ろう
- ・障害者権利条約総括所見を踏まえた地域共生社会を実現させよう

大会決議

- 一、日身連及び加盟団体連携のもと、組織体制の強化を図ろう
- 一、障害当事者参画のもとで障害関連施策を促進させよう
- 一、身体障害者相談員の活用と周知徹底を図ろう
- 一、実効性のある災害時の障害者支援体制を構築させよう
- 一、改正障害者差別解消法の理解啓発を促進させよう



（福田川崎市長のビデオメッセージ）

点字投票について

私は、全盲の、そして文字情報のほとんどを点字で得ている視覚障害者です。今年の 7 月 20 日に行われた参議院議員選挙でも点字で投票を行いました。

候補者を選ぶ方法としては、テレビやラジオの政見放送も参考にしますが、「視覚障害者選挙情報支援プロジェクト」が制作し、点字

毎日号外として毎日新聞社が無料で発行し、点字使用者に送られてきたものも参考にしています。また、地元の音声訳ボランティアグループが選挙公報を CD で制作していますが、これは点字初心者にはとても有益なものになっています。

さて、投票日当日、投票所入口で「点字投票をお願いします」と係員に告げると、暫くして「点字投票担当者」が記載台まで案内してくれました。そこには点字器と投票用紙、そして候補者の氏名、政党名（もしくは無所属）を、それぞれ選挙区と比例区別に点字で書かれた資料を渡されました。投票用紙の大きさや色などは一般の投票用紙と同じで、端の方に点字と墨字で「点字投票用紙」と書いてありました。記載を済ませた後、係員により投票箱の前まで案内され、自分の手で投票用紙を投票箱に入れることができました。

午後 8 時の投票時間終了後、投票箱は開票所に集められて開票され、その中に点字で記載されたものがあれば、「点字投票解読者」によってかな文字が書き添えられ、1 票として数えられます。

このような様々な配慮により、国民のひとりとして選挙権という権利を行使することができました。（広報・啓発委員 おおすきすみこ 大漣純子）

編 集 後 記

今年の夏は例年にない猛暑続きで、日中の外出も控えたいような日々が続いています。水分補給をこまめに行い、室内では無理をせずエアコンを上手に活用しましょう。夜も熱帯夜が多く、睡眠不足になりがちですが、高齢者は特に体調を崩さぬよう工夫が必要です。まだしばらく暑さは続く見込みですので、皆さまくれぐれもご自愛ください。

（広報・啓発委員長 いとうみのる 伊藤實）

発行人 （特非）障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3 丁目

1 番 17 号 102

（頒価 100 円）